

宮部みゆき みやべ・みゆき

1960年、東京都生まれ。法律事務所などに勤めながら小説を書き始め、87年に「我らが隣人の犯罪」（オール讀物推理小説新人賞）でデビュー。以降『龍は眠る』（第45回日本推理作家協会賞）、『火車』（第6回山本周五郎賞）、『蒲生邸事件』（第18回日本SF大賞）、『理由』（第120回直木賞）、『模倣犯』（毎日出版文化賞特別賞、第5回司馬遼太郎賞、第52回芸術選奨文部科学大臣賞文学部門）などのミステリーをはじめ、『本所深川ふしぎ草紙』（第13回吉川英治文学新人賞）、『ほんくら』などの時代小説、『ブレイブ・ストーリー』などのファンタジーまで、多彩な作品を生み出し続ける。2022年、第70回菊池寛賞。近年は句会に参加するなど、俳句への関心を深めており、角川『俳句』に連載していた俳句を素材とした短編小説『ほんぽん彩句』を23年に単行本化。現在は『ハルメク』にて「俳句×小説」を不定期連載。稀代のストーリーテラーであり、現代を代表する作家の一人。

夏井いつき なつゐ・いつき

1957年、愛媛県生まれ。松山市在住。8年間の中学校国語教諭の後、俳人へ転身。「第8回俳壇賞」「第44回放送文化基金賞」「第72回日本放送協会放送文化賞」「第4回種田山頭火賞」受賞。創作活動に加え、俳句の授業〈句会ライブ〉、「俳句甲子園」の創設にも携わるなど幅広く活動中。TBS系「プレバト!!」俳句コーナー出演などテレビラジオでも活躍。『句集 伊月集 梟（朝日出版社）』、『夏井いつきの世界一わかりやすい俳句の授業（PHP研究所）』、『おうちde俳句（朝日出版社）』、『夏井いつきの日々是「肯」日（清流出版）』、『夏井いつきの365日季語手帖（レゾンクリエイト）』など著書多数。俳句集団「いつき組」組長。松山市公式俳句サイト「俳句ポスト365」中級者投稿欄、朝日新聞愛媛俳壇、愛媛新聞日曜版小中学生俳句欄、各選者。2015年より初代俳都松山大使。

神野紗希 こうの・さき

1983年、愛媛県生まれ。高校時代、俳句甲子園をきっかけに句作を開始。2002年、第1回芝不器男俳句新人賞坪内稔典奨励賞。04年から6年間、NHK-BS「俳句王国」の司会を担当。句集に『星の地図』（マルコボコム）『光まみれの蜂』（角川書店）『すみれそよぐ』（朔出版）、著書に『日めくり子規・漱石——俳句でめぐる365日』（愛媛新聞社・第34回愛媛出版文化賞大賞）、『女の俳句』（ふらんす堂）、『もう泣かない電気毛布は裏切らない』（日本経済新聞出版社）他。20年、第11回桂信子賞。現代俳句協会常務理事。日本経済新聞、信濃毎日新聞俳壇選者。

高野ムツオ たかの・むつお

1947年、宮城県生まれ。10代より句作を開始。阿部みどり女、金子兜太、佐藤鬼房に俳句指導を受ける。2002年、鬼房の意を受けて『小熊座』主宰を継承。14年、『萬の翅』により第65回読売文学賞（詩歌俳句賞）、第48回蛇笏賞、第6回小野市詩歌文学賞を受賞。その他句集に、『陽炎の家』『鳥柱』『雲雀の血』『蟲の王』『片翅』、著書に『時代を生きた名句』『語り継ぐいのちの俳句——3・11以後のまなざし』『鑑賞 季語の時空』『あの時——俳句が生まれる瞬間』がある。当館館長。現代俳句協会会長。読売新聞、河北新報、熊本日日新聞俳壇選者。

鬼剣舞

北上・和賀地方に伝わる念仏剣舞^{ふりゅうおどり}の一種。国指定重要無形民俗文化財。全国の風流芸能団体とともに「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。鬼の面と独特の衣装を身につけ、悪霊退散・衆生済度の祈りを込めて刀を手にもつて舞う民俗芸能。角を持たない鬼は仏の化身。宗家としての岩崎鬼剣舞以下、北上市内では13の団体が、伝統をいまに伝える。なお、市内にはテーマ博物館・鬼の館があり、詩歌文学館賞の正賞は鬼剣舞の木彫り面である。

